

上越市のキラリと光る風景を発信しよう!

Instagram (インスタグラム) で「#上越もよう」を付けて、市のまちなみ、自然、歴史、食などの写真を投稿しませんか。



カメラやスマートフォンを片手に、まち歩きを楽しんでみましょう!

standinglookさん



@たにはま公園

okayafricagoさん



@風巻神社

※「#上越もよう」これまでの作品から

fazrichanさん



@なおえつ海水浴場

m.tomomi18さん



@くびき野レールパーク

「#上越もよう」



「動く総合商社」北前船と直江津のまち②

前回 (広報上越6月号)、「直江津の港は今と違う場所でした」と紹介しました。では昔の港は果たしてどこだったのでしょうか…?

●「目の前の海全部が港だこて！」

当時を知る古老に尋ねると、こう返ってきたそうです。そう、直江津の港は「海」そのものでした。

正確には関川の河口港でしたが、川底が浅いため、北前船などの大きな船は沖合に停泊し、^{はしけ}船と呼ばれる小型の船を出して荷物の積み下ろしをしていました。

そして、これを担っていたのは「^{こあげ}小揚」と呼ばれる人々でした。

●多くのなりわいを生み、まちを支えた北前船

「小揚」のほかにも、浜に上がった荷物を運ぶ「^{だちんもち}駄賃持」、船が運んできた商品を取り扱う「^{かいせんどんや}廻船問屋」、「^{いさばあきない}五十集商」と呼ばれる魚売りなど、北前船が港に立ち寄ることでさまざまななりわいが生まれ、直江津のまちには多くの人が集まりました。

慶長19年 (1614年)、福島城から高田城へ城が移ると、港の機能を残して直江津のまちはほとんど高田に移ったと考えられます。まちは衰退の危機を迎えますが、港があったおかげで江戸時代を通してさらに発展していくこととなります。今の直江津があるのは北前船のおかげ、と言えるかもしれません…。



大正～昭和初期の頃の直江津の海の様子。沖に大型の船、手前に船が見えます。昭和30年代頃までこの光景が見られました。提供：まちおこし直江津 佐藤和夫さん



現在の直江津の海。奥に見える米山は昔も今も航海の目印となっています。

次回は、そんな北前船の今も残るゆかりのものを紹介します！お楽しみに！